相談事例D　　小２男子

主　　訴

（保護者）
・友だちとの関わりの中で、カッとなり感情のコントロールができにくい。

（担　任）
・担任の指示を違う意味に受け取り行動してしまう。
・その行動が指示とは違う旨を指摘しても受け入れられない。

判　　断

・検査結果から、知的発達の遅れは認められない。
・衝動性、転導性、集中の弱さも見られるが、心理的なものに起因する可能性が高い。
・知識はあるが、社会的な場面の理解や常識についてはやや、弱い面がある。
・指示内容の理解にも弱さがあり、咄嗟に判断して行動してしまう事も少なくない。
・聴覚情報の取り込み、短期記憶、作業記憶が弱い。注意の持続のスパンが短い。
・空間的図形的認知は優れ、同時処理は得意である。
・字を書く時の力のコントロール（抜き方）が難しく書くことにエネルギーを要している。

支援と配慮

＜通常の学級における支援＞

・感情のコントロールができない場面ではその場から離す。落ち着いてから話をさせる。
・指示内容、場面理解に絵図や文字などの視覚情報を多用する。
・授業の組み立ては注意の持続ができる時間（15分程度）で区切りをもたせる。
・豊かな知識を皆の前で披露できる等の活躍の場を設ける。

＜通常の学級外の支援＞

・本児のことを大切に思うメッセージを伝え続け安心感をもたせる。
・家庭では家事の分担を決め、誉めながら仕事をやりきる経験を増やす。表を作り本児の目に見える形で記録する。

その後

○新学年になって
・クラス替え、担任がかわる。
・トラブルもあるがクラスの中で特に課題が大きな存在ではない

○良くなったところ
・自己中心的な発想は残るが落ち着いてきている。

○課題
・自分がしたつもりの約束を友だちが実行しないと、相手を排斥する特異的で攻撃的なことばが出ることはある。

○手立て
・前学年時に引き続き、頑張ったことを家庭に伝え、それをフィードバックしてもらい、担任と家庭が同じ目線で見守っていることを意識させる。